

令和7年度

橘小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○基礎・基本の徹底を図り、自らめあてを設定し、進んで学ぶ授業の実践
○深い学びをめざす、互いに伝え合い、考えて、つなげる授業の実践

校長

上原 小代子

学力向上推進員

委員 校長 教頭
教務主任 研修主任

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

授業研究会や研修会の実施、教師自身の振り返りアンケート等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能がおおむね身に付いており、与えられた課題にまじめに取り組むことができる児童が多い。 ●語彙力が十分でなく、初読で文章を読み取る力、要点をまとめて書く力に課題がある。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けている。 ・身に付けた知識や技能を、他の学習や生活の場面において活用することができる。 ・語彙力を高め、日常生活で自分の考えや思いを分かりやすく話したり書いたりできる。	・宿題の出し方の工夫、小テストやプリント、タブレットのドリル活用で、基礎的・基本的な事項の習熟を図る。 ・既習事項を用いて課題を解決する場面を増やす。 ・音読や暗唱、朝活での視写や読書、新聞を読む活動（あわスタの活用）を継続し、教室に辞書を常備し、辞書を活用して語彙を増やしたり文章の書き方を身に付けたりさせる。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○みんなの前で調べたことを伝えたり、話し合ったりする活動に意欲をもち始めた児童が増え、ペアやグループの話し合いでは、自分の考えを発言できるようになってきた。 ●自分の考えを分かりやすく表現したり、友達の考えを受けて自分の考えを言ったりすることが苦手である。	・話し手の意図をとらえながら聴くことができる。 ・様々な場面で、自分の考えを書いたり話したりして表現することができる。 ・他者と意見を交流しながら、自分や全体の考えを深めたり広げたりできる。	・ペアトークやグループ学習を効果的に取り入れ、互いの考えを聴き合い、交流・共有できるような場面、時間を確保する。朝会の音読発表で異学年の意見交流の場を確保する。 ・ホワイトボードやICTを活用した発表や話し合い活動を積極的に取り入れる。 ・友達の考えを受けて自分の考えを表現したり、考えた理由を表現したりできるような発問や指示の精選をし、児童の考えが深まるようにする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題に対しては素直に取り組むことができる児童が多い。 ●学習に対する取り組みが受動的で、自分のめあてを見つけたり自己決定したりすることに課題がある。家庭学習に関しては、二極化が進んでいる。 ●自分から進んで課題を見つけて、宿題以外の課題に取り組む児童が少ない。家庭での読書習慣が身についておらず、語彙力が弱い。	・自ら課題を見つけ、その課題選択を通して分かる楽しさやできる楽しさを体感し、充実感や達成感を味わっている。 ・将来の夢を持ち、自分なりに目標を設定して、家庭学習や家庭読書に取り組むことができる。 ・学習準備がきちんとでき、進んで読書や自主学習に励み、自ら学ぶ楽しさを実感できる。	・児童が一時間の見通しがもてるようなめあての設定や振り返りの記述、振り返りの共有を学年に応じて工夫することで、達成感を味わわせ、さらに進んで学ぼうとする意欲を高める。 ・「家庭学習の手引き」や「自主勉強ノートのおすすめメニュー」の配付、ノートの常設展示をし、児童が自己の課題に応じて主体的に学習に取り組めるようなヒントを提示する。 ・図書館サポーターと連携し、学校図書、学級文庫の内容を充実させるとともに、担任が読み聞かせをしたり、本を紹介したりして、読書の楽しさを味わわせる。週末読書を全校的に行い、家庭でも読書に触れる機会を作る。			